

長島弘明先生 略歴と著作目録

略 歴

昭和二十九年一月二十五日 埼玉県大宮市桜木町三丁目一三六番地に生まれる。
 同 四十一年三月 埼玉県大宮市立桜木小学校卒業。
 同 四十四年三月 千葉県八千代市立睦中学校卒業。
 同 四十七年三月 千葉県立千葉高等学校卒業。
 同 四十七年四月 東京大学教養学部文科三類入学。
 同 五十一年三月 同文学部国語国文学専修課程卒業。
 同 五十一年四月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学。
 同 五十二年十二月 佐藤幸子と結婚。
 同 五十四年三月 修士課程修了。
 同 五十四年四月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程進学。
 同 五十四年十月 長女怜子誕生。
 同 五十五年三月 博士課程退学。
 同 五十五年四月 実践女子大学文学部専任講師。
 同 五十七年一月 長男史和誕生。
 同 五十九年八月 次男由尚誕生。
 同 六十年四月 名古屋大学文学部専任講師。
 同 六十一年十二月 名古屋大学文学部助教授。
 平成五年四月 東京大学文学部助教授。
 同 七年四月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授。
 同 十一年四月 同 教授。

同 十二年九月 博士（文学）取得（東京大学）。
同 三十一年三月 東京大学退職。
同 三十一年四月 二松学舎大学文学部特別招聘教授。

この間、国文学研究資料館併任助教授、放送大学客員助教授・教授、ジュネーヴ大学（スイス）客員教授を勤め、また、次の大学・大学院で非常勤講師を勤む。武蔵大学人文学部、東京女子大学短期大学部、南山大学文学部、愛知淑徳短期大学、名古屋大学教養部、東海学園女子短期大学、豊田工業大学工学部、金城学院大学短期大学部、椋山女学園大学短期大学部、鳥取大学教育学部、千葉大学文学部、名古屋大学文学部、岐阜女子大学文学部、東京大学教養学部、慶應義塾大学文学部・大学院文学研究科、愛知大学文学部、新潟大学人文学部、北京日本学研究中心、成蹊大学文学部、東北大学文学部・大学院文学研究科、国際基督教大学教養学部、清泉女子大学文学部、京都大学文学部・大学院文学研究科、奈良女子大学文学部・大学院人間文化研究科、九州大学文学部・大学院人文学府、北海道大学文学部、二松学舎大学文学部・大学院文学研究科。

また、東京大学国語国文学会評議員・会長、日本近世文学会委員・常任委員、日本文学協会委員、文化資源学会理事、財団法人日本古典文学会評議員、国文学研究資料館文献資料収集計画委員会委員・運営会議委員、新潟大学人文社会・教育科学系評価委員、日本学術会議連携会員・会員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員・特別研究員等審査会専門委員・国際事業委員会委員書面審査員、韓国日語日文学会海外編集委員、韓国日本言語文化学会海外編集委員、檀国大学校日本研究所国外研究諮問委員、『日本学研究』海外編輯委員等を務む。

著作目録

(単 著)

- 『雨月物語 幻想の宇宙(上)』(日本放送出版協会、一九九四年一〇月)。
『雨月物語 幻想の宇宙(下)』(日本放送出版協会、一九九五年一月)。
『雨月物語の世界』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、一九九八年四月)(『雨月物語 幻想の宇宙(上)(下)の改訂新版)。
『秋成研究』(東京大学出版会、二〇〇〇年九月)。
『上田秋成の文学』(放送大学教育振興会、二〇一六年三月)。

(編 著)

- 『日本文学史辞典(古典篇)』(三谷栄一・山本健吉監修、竹本幹夫ほかと共編、角川書店、一九八二年九月)(近世文学担当)。
『秋成作品選』(浅野三平ほかと共編、桜楓社、一九八五年四月)。
『建部綾足全集』(全九巻、高田衛ほかと共編、国書刊行会、一九八六年四月〜一九九〇年二月)。
『上田秋成全集』(全一五巻、中村幸彦ほかと共編、中央公論社、一九九〇年八月〜刊行中)。
『上田秋成』(新潮古典文学アルバム、新潮社、一九九一年七月)(池澤夏樹のエッセイを付す)。
『新明解 日本文学史』(浅井清ほかと共編、三省堂書店、一九九五年四月)(中世文学及び近世文学担当)。
『近世の日本文学』(清登典子と共編、放送大学教育振興会、一九九八年三月)。
『古典入門―古文解釈の方法と実際―』(鈴木日出男ほかと共編、筑摩書房、一九九八年五月)(近世文学担当)。
『奥の細道 一』(週間 日本の古典を見る 二八、世界文化社、二〇〇二年十一月)(監修および巻頭解説・図版解説執筆、山本健吉訳)。
『奥の細道 二』(週間 日本の古典を見る 二九、世界文化社、二〇〇二年十一月)(監修および巻頭解説・図版解説執筆、山本健吉訳)。
『改訂版 近世の日本文学』(清登典子と共編、放送大学教育振興会、二〇〇三年三月)(『近世の日本文学』の改訂新版)。

『江戸の広場』(吉田伸之・伊藤毅と共編、東京大学出版会、二〇〇五年七月) (『江戸文学に描かれた両国』「歌川豊国画」[江戸両国すずみの図]執筆)。

『本居宣長の世界』(森話社、二〇〇五年十一月) (『呵刈葭』における宣長と秋成)執筆)。

『言語文化研究Ⅰ 国語国文学研究の成立』(放送大学教育振興会、二〇〇七年三月) (全一五章中、一、二、三、四、八章執筆)。

『国語国文学研究の成立』(放送大学教育振興会、二〇一一年三月) (『言語文化研究Ⅰ国語国文学研究の成立』の改訂新版)。

『日本文学検定公式問題集「古典」二級』(松本直樹ほかと共同監修、新典社、二〇一一年七月) (日本文学検定委員会編、「近世」の部、監修・執筆)。

『名歌名句大事典』(久保田淳と共編、明治書院、二〇一二年五月)。

『雨月物語』(岩波文庫、岩波書店、二〇一八年二月)。

『奇』と『妙』の江戸文学事典』(文学通信、二〇一九年五月)。

(共 著)

『国文学「臨時増刊」 日本の名句名言六六六』(学燈社、一九八一年七月) (『近世の名句名言』の「諸道聴耳世間猿」「世間妾形氣」等八項目)。

『国文学「臨時増刊」 古典の中の女一〇〇人』(学燈社、一九八二年九月) (『雨月物語の「磯良」』『春雨物語の「遊女宮木」』)。

『研究資料日本古典文学 四 近世小説』(大曾根章介・久保田淳ほか編、明治書院、一九八三年一〇月) (『胆大小心録』『癩癖談』)。

『研究資料日本古典文学 七 連歌・俳諧・狂歌』(大曾根章介・久保田淳ほか編、明治書院、一九八四年六月) (『連歌論から俳論へ』『貞門の俳論』『談林の俳論』『鬼貫、蕉風の俳論』『中興諸家、蕪村の俳論』)。

『国文学「臨時増刊」 日本人一〇〇人の手紙』(学燈社、一九八四年九月) (『建部綾足』『上田秋成』)。

『商売繁盛大鑑―日本の企業経営理念―』第八卷 (商人処世訓―経営者の自己管理) (同朋舎出版、一九八五年二月) (『町人囊』の訳注)。

『日本文学新史 近世』(松田修編、至文堂、一九八六年一月) (第六章「面影の田園へ」、新訂版は一九九〇年一〇月)。

『日本古典文学 卒論・レポートを「書く」』(有精堂編集部編、有精堂、一九八六年六月) (『秋成』)。

『国文学「臨時増刊」 日本の古典名文名場面一〇〇選』(学燈社、一九八七年三月) (『雨月物語「白峯」』『雨月物語「青頭巾」』)。

『近世文学の世界』（村松友次・清登典子編、放送大学教育振興会、一九八八年三月）（九「前期読本と秋成」、一二「狂歌・川柳」のうち「狂歌」）。

『日本文学史 第四卷「近世」』（原道生・林達也編、河出書房新社、一九八八年四月）（第三部「近世表現の可能性」第一章「文人の系譜」第三節「去俗の精神」）。

『読本研究文献目録』（横山邦治監修、溪水社、一九九三年一〇月）（「建部綾足研究文献目録」を稲田篤信・玉城司・風間誠史と共編、『読本研究』第三輯下套（一九八九年六月、溪水社）の増補・改訂）。

『国文学「臨時増刊」 古典文学作中人物事典』（学燈社、一九八九年七月）（「春雨物語「血かたびら」の平城上皇」「春雨物語「海賊」の文屋秋津」「春雨物語「捨石丸」の捨石丸」「春雨物語「宮木が塚」の宮木」「春雨物語「樊噲」の樊噲」）。

『国文学「臨時増刊」 幻想文学の劇場』（学燈社、一九八九年二月）（上田秋成「雨月物語」）。

『別冊国文学 四〇 新・古典文学研究必携』（市古貞次編、学燈社、一九九〇年一月）（「秋成」）。

『新編国歌大観 第九卷（「新編国歌大観」編集委員会編、角川書店、一九九一年四月）（「藤簍冊子」の翻刻・解題）。

『国文学「臨時増刊」 古語の宇宙誌』（学燈社、一九九一年五月）（「とく（徳・得）」「はな（花）」「やつす」）。

『近世日本文学』（堤精二・清登典子編、放送大学教育振興会、一九九二年三月）（九「上田秋成の文学」、『近世文学の世界』の「前期読本と秋成」の改訂・増補）。

『日本文学の現状 I 古典（別冊日本の文学）』（有精堂編集部編、有精堂、一九九二年四月）（「秋成」）。

『別冊国文学 四三 古典文学史必携』（久保田淳編、学燈社、一九九二年七月）（II「古典文学ジャンル史」の「物語小説史」）。

『国文学「臨時増刊」 古典文学動物誌』（学燈社、一九九四年一〇月）（「蛭」「蛇」「鯉」「麒麟」）。

『国文学「臨時増刊」 古典文学の術語集』（学燈社、一九九五年七月）（「文人」「寓言」「ちやかし」、新版は一九九六年二月刊）。

『国文学「臨時増刊」 編年体古典文学一三〇〇年史』（学燈社、一九九七年八月）（「一七八一天明元年」一七九〇寛政二年」「一

七九一寛政三年」一八〇〇寛政一二年」）。

『東京大学公開講座 東京大学』（東京大学出版会、一九九八年一〇月）（「文学の中の東（帝）大生」）。

『岩波ジュニア新書 日本古典のすすめ』（岩波書店、一九九九年六月）（二四「雨月物語」）。

『別冊国文学 五二 日本の古典 名言必携』（久保田淳編、学燈社、一九九九年一月）（「秋成・馬琴名言集」、新版は二〇〇二年二月刊）。

『印刷博物誌』（印刷博物誌編纂委員会編、凸版印刷株式会社、二〇〇一年六月）（第二部「印刷の文化と社会」第五章「文書と書

物」第四節「史書と文学書」のうち「読本」「俳書と歌集」「案内」を執筆)。

『蕪村全集 第二巻 連句』(講談社、二〇〇一年九月)。

『日本人の美意識』(東京大学出版会、二〇〇一年十二月)(「蕪村十二月」、元は「日本人の美意識として『UP』第六巻第一号」第六巻第一二号(一九九七年一月)〜一九九七年十二月、東京大学出版会)に毎月連載したもので、「鶯はやよ宗任が初音かな」他、蕪村の発句の評釈)。

『死生学(四) 死と死後をめぐるイメージと文化』(小佐野重利・木下直之編、東京大学出版会、二〇〇八年九月)(『往生要集』と近世小説——日本における「地獄」イメージの流布——)執筆。『死生学研究』二〇〇三年秋号(東京大学大学院人文社会科学研究所、二〇〇三年一月)の「日本における地獄イメージの流布——『往生要集』の場合——」、及びそのイタリア語版である「La diffusione delle immagini dell'Inferno in Giappone: L'influenza dell'Ojyoshu(trattato di ars moriendi scritto nel X secolo dal monaco buddista Genshin)」『Visioni dell'Aldilà in Oriente e Occidente: arte e pensiero, Atti del convegno di Studi』[Graduate School of Humanities and Sociology, Università di Tokyo' 二〇〇三年十一月]の改訂・増補)。

『文学という毒【風刺・パラドックス・反権力】』(青山学院大学文学部日本文学科編、笠間書院、二〇〇九年四月)(「秋成小説の毒」、二〇〇七年九月二三日の青山学院大学におけるシンポジウム記録)。

『古典文学の常識を疑う』(松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編、勉誠出版、二〇一七年五月)(「秋成にとって『春雨物語』を書く意味とは」)。

(論文〔小論・予稿等を含む〕)

庭鐘再考 『近世部会会報』第一号(一九七八年十一月)、日本文学協会近世部会。

『英草紙』と秋成——秋成の物語の主題・構想解明の補助線として—— 『国語と国文学』(一九七九年八月)、至文堂。

「牡丹灯記」の系譜 『近世部会会報』第二号(一九七九年一〇月)、日本文学協会近世部会。

秋成資料拾遺 『解釈』(一九七九年十一月)、解釈学会。

秋成浮世草子と浦島伝承 『実践国文学』第一八号(一九八〇年一〇月)、実践国文学会。

秋成・実法院・円山主水 『近世部会会報』第三号（一九八〇年一〇月）、日本文学協会近世部会。

『諸道聴耳世間猿』『世間妾形氣』書誌 『実践女子大学文学部紀要』第二三集（一九八一年三月）、実践女子短期大学・実践女子短期大学。

秋の藻屑―秋成詠草拾遺― 『実践国文学』第一九号（一九八一年三月）、実践国文学会。

県門綾足評を弁ず 『近世部会会報』第四号（一九八一年一〇月）、日本文学協会近世部会。

秋成の実母とその周辺 『文学』（一九八二年五月）、岩波書店。

秋成資料雑俎（一）―佐藤家蔵資料― 『実践国文学』第二三号（一九八三年三月）、実践国文学会。

常磐松文庫蔵『棠陰比事』（朝鮮版） 三卷一冊 『年報（実践女子大学文芸資料研究所）』第二号（一九八三年三月）、実践女子大学文芸資料研究所。

『春雨物語』と和歌―「宮木が塚」「歌のほまれ」を中心に― 『国語と国文学』（一九八三年五月）、至文堂（稲田篤信編『秋

成 語りと幻夢（日本文学研究資料新集 八）』『有精堂、一九八七年六月』に再録。

「目ひとつの神」の原型 『日本文学』（一九八三年五月）、日本文学協会。

秋成資料雑俎（二）―服部天神文庫・友山文庫資料他― 『実践国文学』第二四号（一九八三年一〇月）、実践国文学会。

末吉家蔵秋成関係資料 『近世文芸』第三九号（一九八三年一〇月）、日本近世文学会。

涼袋・雲郎・蕪村など―上州阪本家俳諧資料紹介― 『日本語学』（一九八三年一月）、明治書院（玉城司と共同執筆）。

涼袋と梅路 『近世部会会報』第六号（一九八三年一月）、日本文学協会近世部会。

秋成の相撲の句 『常磐松俳句会報』創刊号（一九八四年四月）、常磐松俳句会。

手鎖心中 『国文学解釈と鑑賞』（一九八四年八月）、至文堂。

〈資料紹介〉蕪村資料小考 『文学』（一九八四年一〇月）、岩波書店。

蕪村屏風裏面資料の研究（一） 『俳文芸』第二四号（一九八四年十二月）、俳文芸研究会（森川昭ほかと共同執筆）。

西鵬号西鶴新出句 『連歌俳諧研究』第六八号（一九八五年一月）、俳文学会。

常磐松文庫蔵『藐姑射山・再詣姑射山』一卷・山岸文庫蔵『不留佐登』一卷 『年報（実践女子大学文芸資料研究所）』第四号

（一九八五年三月）、実践女子大学文芸資料研究所。

秋成と実法院 『日本古典文学会々報』第一〇五号（一九八五年六月）、日本古典文学会。

梅厓宛秋成書簡 『近世部会会報』第八号（一九八六年六月）、日本文学協会近世部会。

秋成の実母とその周辺・補遺 『名古屋大学国語国文学』第五八号（一九八六年七月）、名古屋大学国語国文学会。

『本朝水滸伝』の構想 『日本文学』（一九八六年八月）、日本文学協会。

連句研究の現状 『季刊連句』第一四号（一九八六年九月）、季刊連句発行所。

秋成の狐詐欺談 『日本文学』（一九八六年十一月）、日本文学協会。

春雨草紙（翻刻） 『読本研究』初輯（一九八七年四月）、溪水社。

作者・絵師・書肆・読者―秋成と綾足の物語を例に― 『日本文学講座 五 物語・小説Ⅱ』（日本文学協会編、大修館書店、

一九八七年六月）。

近世書簡集（二） 『東海近世』創刊号（一九八八年三月）、東海近世文学会（「名古屋手紙の会」の名で塩村耕ほかと共同執筆）。

『春雨草紙』研究（上） 『読本研究』第二輯上套（一九八八年六月）、溪水社。

秋成と『論衡』―「命禄」を中心に― 『和漢比較文学叢書 七 近世文学と漢文学』（和漢比較文学会編、汲古書院、一九八

八年六月）。

秋成の俳諧 『耕』（一九八八年六月）、耕発行所。

綾足の和文 『武蔵野文学』第三六集（一九八九年一月）、武蔵野書院。

近世書簡集（二） 『東海近世』第二号（一九八九年三月）、東海近世文学会（「名古屋手紙の会」の名で塩村耕ほかと共同執筆）。

初期読本の成立と中国白話小説 『日本・中国における近世の社会と文化』（森正夫編、名古屋大学文学部、一九八九年三月）。

『胆大小心録』の中の風俗小説風小品 『すみのえ』第二六卷第二号（一九八九年四月）、住吉大社社務所。

『春雨草紙』研究（中） 『読本研究』第三輯上套（一九八九年六月）、溪水社。

綾足の出奔（上） 『季刊江戸文学』創刊号（一九八九年十一月）、ぺりかん社。

綾足の出奔（中） 『季刊江戸文学』第二号（一九九〇年二月）、ぺりかん社。

近世書簡集（三） 『東海近世』第三号（一九九〇年五月）、東海近世文学会（「名古屋手紙の会」の名で塩村耕ほかと共同執筆）。

綾足の出奔（下） 『江戸文学』第三号（一九九〇年六月）、ぺりかん社。

（隅田川）風来山人『根南志具佐』 『国文学』（一九九〇年八月）、学燈社。

秋成の養父 『上田秋成全集』第二卷付録月報三（中村幸彦・長島弘明ほか編、中央公論社、一九九一年二月）。

秋成と天皇 『日本文学』（一九九一年三月）、日本文学協会。

『春雨物語』の自筆本と転写本 『文学 季刊』第二卷第二号（一九九一年四月）、岩波書店。

秋成の墓 『すみのえ』第二八卷第三号（一九九一年七月）、住吉大社社務所。

蕪村新資料考 『東海近世』第四号（一九九一年九月）、東海近世文学会。

近世書簡集（四） 『東海近世』第四号（一九九一年九月）、東海近世文学会（「名古屋手紙の会」の名で塩村耕ほかと共同執筆）。

秋成の筆跡（二） 『上田秋成全集』第一〇巻付録月報六（中村幸彦・長島弘明ほか編、中央公論社、一九九一年一月）。

文化―文政の文学*小説の近世的描写 『日本文学史を読むIV近世』（有精堂編集部編、有精堂、一九九二年一月）。

建部綾足「西山物語」 『国文学』（一九九二年八月）、学燈社。

秋成の筆跡（四） 『上田秋成全集』第九巻付録月報八（中村幸彦・長島弘明ほか編、中央公論社、一九九二年一〇月）。

未刊浮世草子『浮世後家形気』（解題と翻刻） 『東海近世』第五号（一九九二年二月）、東海近世文学会。

『松蔭日記』の正親町町子は政治の裏面に何を見たか 『国文学』（一九九三年二月）、学燈社。

江戸時代の出版 『東海地区大学図書館協議会誌』第三七号（一九九三年二月）、東海地区大学図書館協議会（講演記録）。

（三島由紀夫）隠された古典―小説に見る物語要素・類型― 『国文学』（一九九三年五月）、学燈社（「青の時代」「禁色」「潮

騒」「宴のあと」を執筆）。

秋成自筆稿目録 『近世文学論輯』（森川昭編、和泉書院、一九九三年六月）。

「古活字本と板本とはどのように違うか」「版本のよしあしはどのように見分けるか」「作品名を決めるには書物のどこの記載を採

るのがならわしか」「近世の出版機構はどうなっていたのか」 『国文学』（一九九三年六月）、学燈社。

秋成の筆跡（六） 『上田秋成全集』第八巻付録月報一〇（中村幸彦・長島弘明ほか編、中央公論社、一九九三年八月）。

蕪村の絵画性 『風の道』（一九九三年八月）、風の道発行所。

蕪村の「実景」 『風の道』（一九九三年九月）、風の道発行所。

男性文学としての『雨月物語』 『日本文学』（一九九三年一〇月）、日本文学協会。

蕪村と芭蕉 『風の道』（一九九三年一〇月）、風の道発行所。

文学と教訓書―談義本まで― 『国語と国文学』（一九九三年一月）、至文堂。

山田良順あて丹羽盤桓子書簡 『文莫』第一八号（一九九三年一月）、鈴木脛学会。

蕪村の田園句 『風の道』（一九九三年一月）、風の道発行所。

蕪村の連句 『風の道』（一九九三年二月）、風の道発行所。

歴史・虚構・命禄―『駕央行』と「歌のほまれ」― 『文学季刊』第五巻第一号（一九九四年一月）、岩波書店。

- 別人の秋成・無腸・餘齋 『上田秋成全集』第一一卷付録月報一一（中村幸彦・長島弘明ほか編、中央公論社、一九九四年二月）。
- 秋成の俳歴―漁焉時代を中心に― 『論集近世文学』五 共同研究 秋成とその時代』（高田衛編、勉誠社、一九九四年一月）。
- 和訳太郎論―ゴシップ小説の方法― 『論集近世文学』五 共同研究 秋成とその時代』（高田衛編、勉誠社、一九九四年一月）。
- 男と女の「性」 『国文学』（一九九五年六月）、学燈社。
- 『藤簍冊子』の和文 『文学』季刊』第六卷第三号（一九九五年七月）、岩波書店。
- 秋成の筆名 『新編日本古典文学全集』英草紙 西山物語 雨月物語 春雨物語』月報（中村幸彦・高田衛・中村博保校注、小学館、一九九五年一〇月）。
- 俗語の明文―『浮世風呂』の文章― 『国語教室』第五八号（一九九六年五月）、大修館書店。
- 涼袋の俳画 『俳画の美 蕪村の時代』（柿衛文庫編、柿衛文庫、一九九六年九月）。
- 近世秀句鑑賞「九月」相撲 『俳句研究』（一九九六年九月）、富士見書房（井本農一・尾形仍編『近世四季の秀句』、角川書店、一九九八年一月に再録）。
- 川柳の恋愛句 『国文学』（一九九六年一〇月）、学燈社。
- 秋成研究雑感 『読本研究』第一〇輯上套（一九九六年一月）、溪水社。
- 蕪村と川柳―詠史句を中心に― 『国文学』（一九九六年十二月）、学燈社。
- 蕪村と秋成 『岩波講座日本文学史』第九卷 一八世紀の文学』（久保田淳・日野龍夫ほか編、岩波書店、一九九六年十二月）。
- 日本人の美意識 『UP』第六卷第一号〜第六卷第二号（通巻二九一〜三〇二号、一九九七年一月〜一九九七年十二月、毎月連載）、東京大学出版会（『鶯はやよ宗任が初音かな』ほか、蕪村の発句の評釈）。
- 近世のことわざ探訪 『言語』第二六卷第一号〜第二七卷第一号（一九九七年一月〜一九九八年一月、隔月連載）、大修館書店（『花は桜木、人は武士』ほか）。
- 宮木の塚の歌 『新日本古典文学大系』六八 近世歌文集 下』月報七九（鈴木淳・中村博保校注、岩波書店、一九九七年八月）。
- 江戸の怪談 『文人の神仏・妖怪展―異界の表現史―』（山寺芭蕉記念館・財団法人山形市文化振興事業団、一九九七年八月）。
- （研究ノクト）剪枝畸人と損徳叟 『東海近世』第九号（一九九八年四月）、東海近世文学会。
- 佼成図書館所蔵『法華経和歌付き仮名書き妙法蓮華経』書誌 （田島毓堂編、『佼成図書館蔵法華経和歌付き仮名書き法華経の研究 影印篇』、名古屋大学文学部日本文学日本語研究室、一九九八年六月）。
- 近世小説のジャンルを縦断する 『国文学』（一九九九年二月）、学燈社。

芭蕉を読む―文学研究が架橋工事であることについて 『学術月報』（日本学術振興会、一九九九年八月）。

『本朝水滸伝』後篇の諸本 『江戸の文事』（延廣眞治編、ぺりかん社、二〇〇〇年四月）。

江戸時代小説における「家族」―綾足と秋成の作品を中心に― 『日本研究』第一五号（韓国外国語大学校日本研究所、二〇〇〇年一二月）。

源内とは何者か 『江戸文学』第二四号（二〇〇一年一月）、ぺりかん社。

本居宣長と上田秋成の論争―古文獻とナシヨナリズム― 『韓国日語日文学会二〇〇二年度夏季学術発表会要旨集』（韓国日語

日文学会編、二〇〇二年六月）。

江戸時代文学における「境界」―上田秋成「雨月物語」の場合― 『日語日文学』第二三輯（二〇〇四年八月）、大韓日語日文学会。

上田秋成最晩年の手紙 『世界思想』第三三号（二〇〇六年四月）、世界思想社。

「白峯」 上田秋成『雨月物語』 『国文学解釈と鑑賞』（二〇〇六年五月）、至文堂。

「青頭巾」の周辺―快庵派の門参を中心に― 『説話の界域』（笠間書院、二〇〇六年七月）。

秋成と松本柳斎 『日本文学』（二〇〇六年一月）、日本文学協会。

『荷田子訓読斉明紀童謡存疑』と秋成・経亮・元克 『新編 荷田春満全集』月報六（『新編 荷田春満全集』第六卷付録）（二〇〇六年十一月）、おうふう。

近世名句の誤読 『海外碩学招請講演会要旨集』（二〇〇七年四月）、BK二一高麗大学校中日言語文化教育研究団。

秋成の著書廃棄 『文学』第八卷第三号（二〇〇七年五月）、岩波書店。

秋成年譜考 『東京大学国文学論集』第二号（二〇〇七年五月）、東京大学文学部国文学研究室。

上田秋成における物語の生成 『Abstracts—Narrative, Narrativehood, Narrativity and Nonnarrative in Japanese Prose of the Edo Period』（二〇〇七年五月）、Universita Pontificia Salesiana, Rome。

秋成伝記資料拾遺 『秋成文学の生成』（飯倉洋一・木越治編、森話社、二〇〇八年二月）。

「死首の咲顔」考 『国語と国文学』（二〇〇八年五月）、至文堂。

最晩年の秋成 『文学』第一〇巻第一号（二〇〇九年一月）、岩波書店。

秋成と蕪村 『蕪村全集』第九卷付録月報九（尾形仿ほか編、二〇〇九年九月）、講談社。

近世文学における「江戸」像―上方から見た「江戸」・江戸から見た「江戸」― 『日本文学の中の江戸・東京表象研究』（檀国

大学校日本研究所、二〇〇九年十二月）。

上田秋成と朝鮮通信使 『Korana』 第一六卷第四号（二〇〇九年十二月）、韓国国際交流財団。

物語集としての『藤簾冊子』―秋成における物語の生成― 『日本研究』 第一三三号（二〇一〇年二月）、高麗大学校。

終わらない夢―『雨月物語』 『国文学解釈と鑑賞』（二〇一〇年三月）、至文堂。

江戸文学と南蛮菓子―カステラと金平糖― 『和菓子』 第一七号（二〇一〇年三月）、虎屋文庫。

崎人 秋成の世界 『京都新聞』（二〇一〇年五月五日、五月一九日、六月二三日）（連載一五回の中の第五・七・一二回）（号

・俳諧・画賛について）。

講演 断簡零墨の中の秋成―『鶉居帖』について― 『ビブリア』 第一三四号（二〇一〇年一〇月）、天理図書館。

怪異作家 雅と俗 『朝日新聞』（二〇一〇年七月二日夕刊） 第六面。

韓国留学生の日本文学研究の現況、並びに展望―日本近世文学を中心に― 『日本学論集』（二〇一一年二月）、慶熙大学校大学院日本学研究会。

院日本学研究会。

月溪宛秋成書簡・『享和三年寿算歌』 紹介 『東京大学国文学論集』 第六号（二〇一一年三月）、東京大学文学部国文学研究室。

留学生の日本文学研究の現況、並びに展望―韓国人留学生の日本近世文学研究を中心に― 『国際シンポジウム「外国にお

ける日本文学研究と日本文学教育―韓国の場合を中心に―』 予稿集』（二〇一二年九月）、東京大学大学院人文社会系研究科

・文学部国文学研究室。

講演 『雨月物語』の多義性について 『京都語文』 第一九号（二〇一二年一月）、佛教大学国語国文学会。

『春雨物語』―反・近世小説としての語り― 『物語の言語―時代を超えて―』（寺田澄江・小嶋菜温子・土方洋一編、青簡舎、

二〇一三年二月）。

『雨月物語』の享受 『東京大学・コロンビア大学合同国際シンポジウム「日本文学に関する研究と教育の国際化」予稿集』

（二〇一三年三月）、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部国文学研究室。

『雨月物語』を映画「雨月物語」から読む 『国際学術会議「一七一九世紀東アジア伝統文化の中の死と死後観」予稿集』（二

〇一三年四月）、高麗大学民族文化研究院HK韓国文化研究団）。

東京大学における日本文学教育 『日本言語文化』 第二七輯（二〇一四年四月）、韓国日本言語文化学会。

「総合日本文学」と留学生の現況 『国際シンポジウム「日本文学研究と中国―研究の国際化をめざして―」予稿集』（二〇

一三年七月）、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部国文学研究室。

『源氏物語』と『雨月物語』 『立教大学日本学研究所年報』第一〇・一一合併号（二〇一三年七月）、立教大学日本学研究所（口頭発表資料）。

延享の朝鮮通信使と日本人医師―樋口道与と『韓客治験』― 『韓国日語日文学会 二〇一四年国際学術シンポジウム「日本における「歴史」の語りと交流の「歴史」―「韓国との対話」という未来志向的視点から―」予稿集』（二〇一四年一〇月）、韓国日語日文学会。

上田秋成と樋口道与―大坂文人の文化相対主義― 『日本人は日本をどうみてきたか 江戸から見る自意識の変遷』（田中優子編、笠間書院、二〇一五年二月）。

Opowieści po deszczu przy księżycu, ledy Akinariego a ich adaptacja filmowa Mizoguchiego Kenjiiego-tradycja, dekonstrukcja i rekonstrukcja klasycznej literatury japońskiej『JAPONICA : Alchemia słowa i obrazu -tradycja, dekonstrukcja i rekonstrukcja』（二〇一五年）, Polska Fundacja Japonistyczna（『雨月物語』を映画「雨月物語」から読む）『国際学術会議「一七―一九世紀東アジア伝統文化の中の死と死後観」予稿集』（二〇一三年四月）、高麗大学民族文化研究院HK韓国文化研究団、の増補改稿。

『春雨物語』の書写と出版 『国語と国文学』（二〇一七年一月）、明治書院。

「迦具都遅能阿良毗」考―上田秋成が見た天明京都大火― 『日本学研究』第五三輯（二〇一八年一月）、檀国大学校日本研所（「上田秋成が記した浅間山噴火と京都大火―「浅間の煙」と「迦具都遅能阿良毗」―」『コロキウム「韓・日古典文学における非日常体験の形象と日常性回復のメタフォー」（飢饉と災害、天災地変）予稿集』（二〇一七年六月、檀国大学校日本研究所）の改訂・増補）。

渋谷和邦氏蔵上田秋成資料 『東京大学国文学論集』第一三三号（二〇一八年三月）、東京大学文学部国文学研究室。

芳賀矢一『留学日誌』―東京大学国文学研究室蔵本の影印と翻刻― 『東京大学国文学論集』第一四号（二〇一九年三月）、東京大学文学部国文学研究室。

（辞典・事典等）

『近世文学研究事典』（岡本勝・雲英末雄編、桜楓社、一九八六年四月）（「本朝水滸伝」「雨月物語」「春雨物語」「建部綾足」「上

田秋成)。

『連句辞典』(東明雅ほか編、東京堂出版、一九八六年六月)〔「文献資料」を塩村耕ほかと共同執筆〕。

『学研 新・古語辞典』(市古貞次編、学習研究社、一九八六年二月)〔「名句辞典」全三七二句の注解〕。

『大歳時記 第二巻 句歌 秋冬新年』(山本健吉監修、尾形仿・久保田淳ほか編、集英社、一九八九年八月)〔「衝突入」「顔見世」等一七項目〕。

『大歳時記 第三巻 歌枕 俳枕』(山本健吉監修、尾形仿・久保田淳ほか編、集英社、一九八九年一〇月)〔「足羽川」「遠敷」等八項目〕。

『俳文学大辞典』(加藤楸邨・大谷篤蔵・井本農一監修、尾形仿・森川昭ほか編、角川書店、一九九五年一〇月)〔「いせのはなし」〕。

『世界人物逸話大事典』(朝倉治彦・三浦一郎編、角川書店、一九九六年二月)〔「建部綾足」「林述斎」「林鳳岡」〕。

『時代別日本文学史事典 近世編』(時代別日本文学史事典編集委員会編、東京堂出版、一九九七年六月)〔「上田秋成」〕。

『日本古典文学大事典』(久保田淳・森川昭ほか編、明治書院、一九九八年六月)〔「上田秋成」「海道狂歌合」等一二項目〕。

『日本古典籍書誌学辞典』(中野三敏・長谷川強ほか編、岩波書店、一九九九年三月)〔「秋田屋太右衛門」「柏原屋清右衛門」「堺屋仁兵衛」「林伊兵衛」「菱屋孫兵衛」「富士屋長兵衛」「徳川家(紀伊)」「森鴎外」「渡辺霞亭」「渡辺青洲」〕。

『全訳 全解古語辞典』(山口堯二・鈴木日出男編、文英堂、二〇〇四年一〇月)〔「面・表(おもて)」「面伏」「好色」「亀」「面(つら)」「鶴」〕。

『新版 近世文学研究事典』(岡本勝・雲英末雄編、おうふう、二〇〇六年二月)〔「本朝水滸伝」「雨月物語」「春雨物語」「建部綾足」「上田秋成」〕。『近世文学研究事典』の改訂・増補)。

『上田秋成研究事典』(秋成研究会編、笠間書院、二〇一六年一月)〔「秋成の伝記」〕。

(書評・時評・解説等)

大輪靖宏著『上田秋成文学の研究』 『国語と国文学』(一九七七年四月)、至文堂。

鷺山樹心著『秋成文学の思想』 『解釈』(一九七九年八月)、解釈学会。

怪異小説の読本前史―太刀川清著『近世怪異小説研究』― 『日本文学』(一九八〇年六月)、日本文学協会。

日野龍夫著『官長と秋成―近世中期文学の研究―』

『国文学』（一九八六年五月）、学燈社。

（紹介）岡本勝・雲英末雄編『近世文学研究事典』

『名古屋大学国語国文学』第五八号（一九八六年七月）、名古屋大学国語国文学会。

森山重雄著『上田秋成 史的情念の世界』

『文学』（一九八七年三月）、岩波書店。

延広真治著『落語はいかにして形成されたか』

『名古屋大学国語国文学』第六一号（一九八七年十二月）、名古屋大学国語国文学会。

水田潤編『近世文芸史論』

『岡大國文論稿』第一八号（一九九〇年三月）、岡山大学文学部国語国文学研究室。

田中優子著『近世アジア漂流』

『国文学』（一九九一年五月）、学燈社。

学界時評・近世

『国文学』（一九九三年二月〜一九九八年六月）、学燈社（年二回、六月号・十二月号に掲載）。

鷺山樹心著『秋成と幻の筆アダン 春雨梅花歌文巻』

『花園大学研究紀要』第二六号（一九九四年三月）、花園大学文学部。

BOOKS IN JAPANESE 『THE JAPAN FOUNDATION NEWSLETTER』Vol. XX II / No. 2（一九九四年七月）『The Japan Foundation』

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. IX, Part2: Humanities 1991—92』（東方学会編『The Japan Foundation』一九九五年十二月）。

（紹介）小倉学・伊藤泰和・石川晶康校訂『香取大綱宜家日記 第一』『国文学』（一九九六年六月）、学燈社。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. X, Part2: Humanities 1993—94』（東方学会編『The Japan Foundation』一九九八年二月）。

ハルヲ・シラネ／鈴木登美編『創造された古典』『月刊国語教育』第一九卷九号（一九九九年一月）、東京法令出版。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. X I, Part2: Humanities 1995—96』（東方学会編『The Japan Foundation』一九九九年十二月）。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. X II, Part2: Humanities 1997—98』（東方学会編『The Japan Foundation』二〇〇一年十一月）。

林雅彦編『生と死の図像学 アシアにおける生と死のコスモロジー』（紹介）『DALS ニュースレター』第四号（二〇〇三年一二月）、東京大学大学院人文社会系研究科。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. X III, Part2: Humanities 1999—2000』（東方学会編『The Japan Foundation』二〇〇三年一二月）。

飯倉洋一著『秋成考』 『国文学』(二〇〇五年八月)、学燈社。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. XIV, Part2: Humanities 2001—2002』
(東方学会編、The Japan Foundation、二〇〇五年十二月)。

塩村耕著『近世前期文学研究—伝記・書誌・出版—』 『名古屋大学国語国文学』第九九号(二〇〇六年十二月)、名古屋大学
国語国文学会。

Early Modern Literature 『AN INTRODUCTORY BIBLIOGRAPHY FOR JAPANESE STUDIES, Vol. XV, Part2: Humanities 2003—2004』
(東方学会編、The Japan Foundation、二〇〇七年十二月)。

(紹介) 梅原章太郎著『蕉風付合論』 『国語と国文学』(二〇〇八年八月)、至文堂。

高田衛著『春雨物語論』 『国語と国文学』(二〇一一年九月)、至文堂。

紹介 故前田利治氏旧蔵『猿蓑』坤巻一冊 『東京大学国文学論集』第七号(二〇一二年三月)、東京大学文学部国文学研究室。
シンポジウム「日本近世文学と朝鮮」傍聴記—「近世文学研究共和国」への最初の一步 『近世文藝』第九六号(二〇一二年七月)、日本近世文学会。

「解説」 『完本 上田秋成研究序説』(高田衛著、ペリカン社、二〇一三年四月)。

(対談・座談会等)

未完小説をめぐって 『文学 季刊』第四卷第四号(一九九三年一〇月)、岩波書店(久保田淳・十川信介・石原千秋と)。

秋成、気質物、そしてヨーロッパ分類学 『国文学』(一九九五年六月)、学燈社(高山宏と)。

近世文学五十年 『文学』第三卷第三号(二〇〇二年五月)、岩波書店(司会。長谷川強・中野三敏・原道生・上野洋三と司会)。
「江戸」を語る 『国文学解釈と鑑賞』(二〇〇三年十二月)、至文堂(渡辺憲司・揖斐高・ロバート・キャンベルと)。

近世小説—ジャンル意識を超えて 『国文学』(二〇〇五年六月)、学燈社(延広真治と)。

西鶴と浮世草子の研究 『リポート笠間』第四七号(二〇〇六年一月)、笠間書院(篠原進・染谷智幸・中嶋隆・河合眞澄・
塩村耕と)。

《座談会》文学と学問の間 近世文学 『文学』第八卷第三号(二〇〇七年五月)、岩波書店(司会。揖斐高・鈴木俊幸・堤邦

彦と)。

鼎談・江戸の怪異譚と西鶴 『西鶴と浮世草子研究』 第二号 (二〇〇七年八月)、笠間書院 (高田衛・小松和彦と)。
秋成——テクストの生成と変容 (討論記録) 『テクストの生成と変容』 (飯倉洋一編、大阪大学大学院文学研究科、二〇〇八年三月) (風間誠史らと)。

《座談会》 上田秋成 『文学』 第一〇巻第一号 (二〇〇九年一月)、岩波書店 (司会。木越治・稲田篤信・飯倉洋一と)。

〔座談会〕 荷田春満と近世の学芸——『新編荷田春満全集』 全十二巻完結にあたって—— 『国学院雑誌』 第一一二巻第一号 (二〇一一年一月)、国学院大学 (鈴木淳・根岸茂夫・松本久史と)。

対談 文学的想像力を駆使して著された不朽の二書 高田衛著『定本 上田秋成研究序説』 (国書刊行会)、『完本 上田秋成年譜考説』 (ぺりかん社) 刊行によせて 『図書新聞』 三二二二号 (二〇一三年六月一日)、(株) 図書新聞 (木越治と)。

先學を語る——日野龍夫博士—— 『東方學』 第百二十九輯 (二〇一五年一月)、東方學會 (大谷雅夫、木田章義、田中康二、藤原英城、山崎芙紗子、山本秀樹と)。

(目録・図録)

「春雨物語」 参考文献目録 『春雨物語 付春雨草紙』 (浅野三平編、桜楓社、一九八三年四月) (木越治と共著)。

「連句研究文献目録」 『国文学解釈と鑑賞』 (一九八七年五月)、至文堂。

『東京大学国文学研究室所蔵 本居文庫目録』 (東京大学国文学研究室編、雄松堂出版、一九九七年五月) (編集)。

『東京大学総合図書館再建七〇周年記念 近世文学資料展——展示資料目録——』 (東京大学附属図書館所蔵資料展示委員会編、東京大学附属図書館、一九九八年十一月) (展示指導・解題)。

『日本近世文学会 平成一二年度春季大会 東京大学国文学研究室蔵資料展示 目録』 (東京大学国文学研究室編、二〇〇〇年六月) (編集)。

『東京大学国文学研究室所蔵 古典籍目録』 (東京大学国文学研究室編、二〇〇〇年六月) (編集)。

『東京大学国文学研究室所蔵 芝居番付目録』 (本篇・索引篇) (日本学術振興会、二〇〇〇年六月) (監修)。

『東京大学国文学研究室所蔵 芝居番付』 (CD版、目録と影印) (日本学術振興会、二〇〇〇年六月) (監修)。

『江戸期の俳書展―展示資料目録―』（東京大学附属図書館所蔵資料展示委員会編、東京大学附属図書館、二〇〇二年六月）（展示指導・解題）。

『日本をみつけた「江戸時代の文華」展』（日本近世文学会、二〇〇二年六月）（「女士佐日記」）。

『カリフォルニア大学バークレー校所蔵 本居文庫目録』（東京大学国文学研究室編、雄松堂出版、二〇一〇年一月）（編集）。

『特別展観 没後二〇〇年記念 上田秋成』（京都国立博物館編、二〇一〇年七月）（「上田秋成像」「上田秋成坐像」「和歌短冊」「印章」「賀茂真淵書状由来書」「南斗八図」「やすい祭・牛祭絵巻」「山口素絢宛書状」「松島・山桜・松鶴図」の解説・釈文）。

『上田秋成 没後二〇〇年記念』（日本近世文学会編、二〇一〇年一〇月）（はじめに）「一 上田秋成像」「三 上田秋成像」「六 上田秋成像」「七 上田秋成坐像・自像笥記」「八 末吉家過去帳」「九 和歌短冊」「二九 吉岡弁子宛賀茂真淵書状」「二〇 賀茂真淵書状由来書」「二三 古今和歌集打聞」「二四 印章 伝上田秋成所用」「三一 擬 柿園・梅翁・蕉翁三体」「三五 追擬住吉哥合」「三七 寿算歌桜花七十章」「三八 享和三年春寿算歌」「四三 南斗八図」「四四 梅に叭々鳥図」「四五 七夕図」「四六 蚕図」「四七 柳図」「四八 須磨の浦図」「四九 呉春宛書状」「五一 やすらい祭・牛祭絵巻」「五八 山口素絢宛書状」「五九 山口素絢宛書状」「追加 秋成・恵遊尼貼り交ぜ屏風」。

『観音教寺所蔵俳諧資料目録』 『東京大学国文学論集』第一二号（二〇一七年三月）、東京大学文学部国文学研究室（洪晟準・金美眞と共編）。

（科学研究費補助金研究成果報告書）

『上田秋成の自筆本・自筆草稿に関する基礎的研究』（平成三〇五年度、一般研究（C）、一九九四年三月）。

『近世中期日本文学の研究』（平成七〇九年度、基盤研究（C）、一九九八年三月）。

『上田秋成伝記の作成』（平成一〇〇二年度、基盤研究（C）、二〇〇一年三月）。

『建部綾足伝記の作成』（平成一三〇一五年度、基盤研究（C）、二〇〇四年三月）。

『上田秋成の文業の書誌学的・文献学的研究』（平成一六〇一八年度、基盤研究（C）、二〇〇七年三月）。

(高校国語教科書)

- 『探求国語Ⅰ (古典編)』(桐原書店、一九九八年二月)(共編)。
『展開国語Ⅰ (古典編)』(桐原書店、一九九八年二月)(共編)。
『探求国語Ⅱ (古典編)』(桐原書店、一九九九年二月)(共編)。
『展開国語Ⅱ』(桐原書店、一九九九年二月)(共編)。
『高等学校古典Ⅰ (古文編)』(桐原書店、一九九九年二月)(共編)。
『高等学校古典Ⅱ (古文編)』(桐原書店、二〇〇〇年二月)(共編)。
『探求国語総合 (現代文・表現編)』(桐原書店、二〇〇三年二月)(共編)。
『探求国語総合 (古典編)』(桐原書店、二〇〇三年二月)(共編)。
『展開国語総合』(桐原書店、二〇〇三年二月)(共編)。
『高等学校古典 (古文編)』(桐原書店、二〇〇四年二月)(共編)。
『高等学校古典 (漢文編)』(桐原書店、二〇〇四年二月)(共編)。
『探求国語総合 (現代文・表現編)』(改訂版)(桐原書店、二〇〇六年二月)(共編)。
『探求国語総合 (古典編)』(改訂版)(桐原書店、二〇〇六年二月)(共編)。
『展開国語総合』(改訂版)(桐原書店、二〇〇六年二月)(共編)。
『高等学校古典 (古文編)』(改訂版)(桐原書店、二〇〇七年二月)(共編)。
『高等学校古典 (漢文編)』(改訂版)(桐原書店、二〇〇七年二月)(共編)。
『探求国語総合 (現代文・表現編)』(改訂版)(桐原書店、二〇一三年二月)(共編)。
『探求国語総合 (古典編)』(改訂版)(桐原書店、二〇一三年二月)(共編)。
『国語総合』(改訂版)(桐原書店、二〇一三年二月)(共編)。
『新探求国語総合 古典編』(桐原書店、二〇一六年二月)(共編)。
『新探求国語総合 現代文・表現編』(桐原書店、二〇一六年二月)(共編)。
『新探求古典B 古文編』(桐原書店、二〇一七年二月)(共編)。
『新探求古典B 漢文編』(桐原書店、二〇一七年二月)(共編)。

(その他)

戦後詩の転回 『国文学解釈と鑑賞』(一九七三年四月)、至文堂。

木俣先生と白秋―素人やぶにらみの記― 『実践国文学』第二〇号(一九八一年一〇月)、実践国文学会。

新岩橋の記 『近世部会会報』第五号(一九八二年一二月)、日本文学協会近世部会。

蕪村の屑拾い 『近世部会会報』第七号(一九八四年一二月)、日本文学協会近世部会。

秋の七草 『実用園芸百科 第三巻 草花・山野草Ⅱ』(ぎょうせい、一九八五年五月)。

HAIKAI IN JAPANESE CULTURE (日本文化の中の俳諧)・THE LIFE AND POETRY OF ISSA KOBAYASHI (小林一茶の生涯と作品) 『西

川右近の会公演パンフレット』(一九八六年二月)、西川右近の会。

常磐松俳句会のことなど 『実践国文学』第三三三号(一九八八年三月)、実践国文学会。

常磐松俳句会の思い出一つ 『春雷』第八巻第四号(一九八八年七月)、春雷。

(表紙解説) 江島其磧作『浮世親仁形気』 『名古屋大学学報』第二九七号(一九八八年七月)、名古屋大学。

和本・唐本を死なすな―本学所蔵和漢古典籍の目録化― 『館燈』一〇一(一九九一年二月)、名古屋大学図書館。

国文学と日本文学 『UD』二八五号(一九九六年七月)、東京大学出版会。

日本の文学 『ENCARTA97 (CD-ROM版)』(Microsoft、一九九七年二月)〔「日本の文学」の項の編集・執筆〕。

日本の文学 『ENCARTA98 (CD-ROM版)』(Microsoft、一九九七年一二月)〔「日本の文学」の項の編集・執筆〕。

清書できないワープロ・劣化したデジタル資料 『電脳文化と漢字のゆくえ』(平凡社、一九九八年一月)。

追懐中村幸彦先生 『混沌』第二二号(一九九八年八月)、中尾松泉堂書店。

中村幸彦先生と『春雨物語』 『ヒブリア』第一一〇号(一九九八年一〇月)、天理図書館。

中村博保氏の秋成研究 『富士フェニックス論叢』(一九九八年一二月)、富士フェニックス短期大学。

日本の文学 『ENCARTA99 (CD-ROM版)』(Microsoft、一九九八年一二月)〔「日本の文学」の項の編集・執筆〕。

井本農一先生の思い出 『祥』(一九九九年一月)、祥。

東大教師が新入生にすすめる本 『UD』三二八号(一九九九年四月)、東京大学出版会。

A ORIGIN DO HAIKAI 『Made in JAPAN (ポルトガル語日本情報誌)』第二六号(一九九九年六月)、Made in JAPAN。

日本の文学 『ENCARTA百科事典2000 (CD-ROM版)』(Microsoft、一九九九年一〇月)〔「日本の文学」の項の編集・執筆〕。

『東京大学所蔵 草雙紙目録』 完結によせて 『東京大学所蔵 草雙紙目録 五編』(青裳堂書店、二〇〇一年一月)。
序 『近世中期の上方俳壇』(深沢了子著、和泉書院、二〇〇一年十二月)。

幻影城の書物蒐集狂 『日本経済新聞』(二〇〇二年一月三十一日、第四〇面)。

日本の文学 『ENCARTA総合百科事典2003 (CD-ROM版)』(Microsoft 二〇〇二年十一月) (『日本の文学』の項の編集・執筆)。

『Japanese Calligraphy in Narrative Literature (MORISAWA CALENDAR 2003 MAN AND WRITING No.21)』 (モリサワ、二〇〇三年一月)(特別協力)。

海外で日本を学ぶ(インタビュー) 『東京大学新聞』(二〇〇三年五月十三日)。

日野龍夫氏の急逝を悼む 『江戸文学』 二九号(二〇〇三年一月)、ペリかん社。

スイスの服部さん 『かつて服部祥樹ありき 服部祥樹さんの思い出と言葉』(私家版、二〇〇三年十二月)。

『東大教師が新入生にすすめる本(文春新書三六八)』(共著、文芸春秋、二〇〇四年三月)。

『可都里と蟹守 五味家蔵五味可都里・蟹守資料集』(池原鍊昌編、五味企画、二〇〇四年八月)(編集協力)。

推薦文 『海王宮―壇之浦と平家物語―』(松尾葦江編、三弥井書店、二〇〇五年一〇月)。

秋成とのつきあい 『日本古典文学会のあゆみ(日本古典文学会々報別冊)』(財団法人日本古典文学会、二〇〇六年十二月)。

私の三冊(岩波文庫創刊八〇年記念) 『図書』(二〇〇七年四月、岩波書店)。

私にとって大学とは(五月祭八〇回記念特別企画「八〇回記念インタビュー」) 『五月祭八〇回記念誌 Hatchi!』(二〇〇七年五月)。

五月)。

進学のための学科案内 『東京大学新聞』(二〇〇七年五月二二日)。

奈良晒 『名古屋大学国語国文学』 第一〇〇号(二〇〇七年十二月)、名古屋大学国語国文学会。

『春雨草紙』の思い出 『図書館報 光丘』No.132(二〇〇九年二月)、酒田市立図書館・酒田市立光丘文庫。

号泣と憤怒 『祝古稀／謝学恩 拝寿延廣師』(私家版、二〇〇九年九月)。

まえがき 『カリフォルニア大学バークレー校所蔵 本居文庫目録』(東京大学国文学研究室編・雄松堂出版、二〇一〇年一月)。

雑誌『文学』と私 『文学』 第一四巻第五・六月号(二〇一三年五月)、岩波書店。

『近世文藝』 百号に寄せて―鈴木勝忠先生の「貞享元祿の江戸俳諧」の原稿― 『近世文藝』 第一〇〇号(二〇一四年七月)、

日本近世文学会。

『日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画』の最終目標 『国文研ニュース』 三八(二〇一五年一月)、国文

学研究資料館。

四十年前と三十年前の記憶 『森川伝授手習鑑』（私家版、二〇一五年五月）。

選択のし直し 『PROSPECTUS 2015 進学ガイドランス』（東京大学文学部、二〇一五年五月）。

特集の趣旨（「日本語の歴史的典籍データベースと研究の未来」） 『学術の動向』第二一巻第六号（二〇一六年六月）、日本学術協力財団。

上田秋成の文学⁽¹⁶⁾ 『ON AIR』第一二三号（二〇一六年一二月）、放送大学。

古井戸さんとの旅 『古井戸秀夫教授退官記念講演 四月大歌舞伎』（二〇一七年三月）、テアトロ・フリユイード。

「文化資源学」って何？ 『文化資源学』第一五号（二〇一七年六月）文化資源学会。

（通巻一四八号・一四九号・一五〇号）秋成／雑俎／蟹のはらわた（一）・（二）・（三） 『国語国文』第八七巻第一号（二〇〇

〇号記念特輯―『国語国文』この一篇（二〇一八年一月）、京都大学文学部国語学国文学研究室。

（学会発表・講演・シンポジウム）

上田秋成伝記資料二三―出生その他について―（日本近世文学会昭和五六年秋期大会、一九八一年一月一五日、於就実女子大学）。

小説の時間（日本文学協会第二回研究発表大会シンポジウム、一九八二年七月一〇日、於法政大学）（日暮聖・佐藤深雪と）。

末吉家蔵秋成関係資料（日本近世文学会昭和五七年秋期大会、一九八二年一〇月一〇日、於岩手大学）。

綾足の出奔（日本近世文学会昭和五九年春期大会、一九八四年六月二四日、於共立女子大学）。

文学史とは何か―近代から古典へ（東京大学国語国文学会 シンポジウム「文学史とは何か」、一九八六年一月八日、於東京大学）（米田利昭・塚本康彦・古橋信孝と）。

作者・読者・本屋・絵師―『雨月物語』の場合―（名古屋大学国語国文学会、昭和六一年秋期研究発表会、一九八六年一二月、於名古屋大学）。

『本朝水滸伝』と『春雨物語』の間（日本文学協会第八回研究発表大会、一九八八年七月九日、於和光大学）。

秋成文学の成立と展開（中京大学国文学会、昭和六三年度秋季大会、一九八八年十一月、於中京大学）。

建部綾足の国学（鈴屋学会「月例講演会」、一九八九年九月一六日、於本居宣長記念館）。

秋成と天皇（日本文学協会第四五回大会、一九九〇年一〇月一四日、於北海道大学）。

旅と芭蕉（大垣 全国俳句大会、一九九一年一〇月二六日、於大垣市総合福祉会館ホール）。

江戸時代の出版（東海地区大学図書館協議会、一九九一年一月八日、於名古屋学院大学）。

『春雨物語』諸本の問題点（東海近世文学会、一九九二年一月一八日、於名古屋市「だるま屋」。

文人としての鈴木胤（鈴木胤学会、一九九二年六月六日、於離屋会館）。

芭蕉と尾張俳人（名古屋市民大学「名古屋学」、一九九二年一〇月二八日、於名古屋市社会教育センター）。

上田秋成（「宣長十講 宣長をめぐる人々」、一九九二年二月一九日、於本居宣長記念館）。

上田秋成の世界（鈴鹿市芸術文化セミナー、一九九三年六月二〇日、於鈴鹿市文化会館さつきプラザ）。

江戸怪奇文学「上田秋成の世界」（江戸文化フォーラム、一九九三年一〇月二八日、於酒田市総合文化センター）。

雨月物語』「菊花の約」「浅茅が宿」「吉備津の釜」（千葉市民文化大学、一九九四年九月三〇日・一〇月七日、於千葉市文化センター）。

雨月物語（ラジオ放送、NHK第二）（NHK文化セミナー・江戸文芸をよむ、一九九四一〇月二日～一九九五年三月二八日）。

上田秋成（愛知淑徳大学エクステンションセンター・ウィークエンドカレッジ「悲恋」の日本文学史（古典編）、一九九五年七月二十九日、於愛知淑徳大学）。

月二十九日、於愛知淑徳大学）。

『雨月物語』の世界（群馬県立女子大学国語国文学会講演会、一九九六年六月二十九日、於群馬県立女子大学）。

蕪村と涼袋（一九九七年三月八日、於柿衛文庫）。

『雨月物語』の世界―「浅茅が宿」を例に―（金城学院大学国文学会、一九九七年五月二〇日、於金城学院大学）。

雨月物語と仏教（日本仏教鑽仰会、一九九七年五月一〇日、於国立教育会館）。

文学の中の「東（帝）大生」（東京大学公開講座「東京大学」、一九九七年一〇月二五日、於東京大学）。

近世文学の本のいろいろ（東京大学附属図書館講演、一九九八年一月九日、於東京大学総合図書館）。

繋がる資料・繋ぐ資料（名古屋大学国語国文学会、一九九八年二月一二日、於名古屋大学）。

上田秋成の小説―作品論の前になすべきこと―（中央大学国文学会、一九九九年一月二六日、於中央大学）。

近世小説における「家族」―綾足と秋成の作品を中心に―（第一回韓国外大・東京大 日本研究、二〇〇〇年四月八日、於韓国外国語大学校）。

江戸小説と中国白話小説―『雨月物語』『菊花の約』と『古今小説』『范巨卿雞黍死生交』を例に―（学術講演会、二〇〇〇年六月九日、於北京日本学研究センター）。

上田秋成（鈴鹿市文学セミナー「近世文学」、二〇〇〇年七月二日、於鈴鹿市文化会館）。

『雨月物語』の主題と表現―「浅茅が宿」を例に―（学術講演、二〇〇〇年一月三日、於フイレンツェ大学）。

『雨月物語』の主題と表現―「菊花の約」を例に―（学術講演、二〇〇〇年一月二五日、於ローマ大学）。

西鶴小説の方法―書簡体小説『万の文反古』を例に―（学術講演、二〇〇一年一月一日、於パリ第七大学）。

上田秋成と本居宣長―論争を通して―（学術講演、二〇〇一年一月一日、於パリ東洋言語文化研究所）。

『雨月物語』の表現について（学術講演、二〇〇一年一月二日、於パリ東洋言語文化研究所）。

日本における文学研究の未来像―古典文献学と文化資源学の視点から―（二〇〇一年三月二日、於北海道大学）。

雨月物語の表現―表現の多義性について―（二〇〇一年六月二六日、於中央大学附属高等学校）。

俳書さまざま（東京大学附属図書館講演、二〇〇二年六月一七日、於東京大学附属図書館）。

本居宣長と上田秋成の論争―古文獻とナシヨナリズム―（韓国日語日文学会二〇〇二年度夏季学術発表会、二〇〇二年六月二二日、於清州大学校）。

日本における地獄イメージの流布―『往生要集』の場合―（「洋の東西の美術と思想に見られる死後の世界観」、二〇〇三年三月二一日、於ウフィツィ美術館）。

誤解された芭蕉―「古池や蛙飛込む水のおと」について―（東京大学文学部公開講座 第六回常呂講座、二〇〇三年五月一〇日、於常呂町中央公民館）。

蛙は古池に飛び込んではいけない―もつとおもしろい芭蕉―（東京大学オープンキャンパス、二〇〇三年七月三一日、於東京大学）。
まちがいだらけの芭蕉・蕪村―誤解された「古池や蛙とびこむ水の音」ほか―（日本古典文学会講演会、二〇〇三年一〇月二五、二六日、於福島県塙町塙公民館・いわき市山田公民館）。

「雨月物語」の表現（群馬県立女子大学平成一六年度県民公開授業「日本のことばと文化」、二〇〇四年五月二二日、於群馬県立女子大学）。

江戸時代文学における「境界」―上田秋成「雨月物語」の場合―（韓国日本学連合会、二〇〇四年七月一〇日、於東西大学校）。
『奥の細道』と福島県（日本古典文学会講演会、二〇〇四年一〇月三〇、三一、於会津若松市文化センター・サンライズもとみや）。

『雨月物語』の魅力（清泉女子大学公開講座「土曜自由大学」、二〇〇六年五月二七日、於清泉女子大学）。

誤解された江戸の俳句―「古池や蛙飛込む水の音」ほか―（総合講座講演、二〇〇六年十一月一六日、於北京日本学研究センター）。書簡体小説の方法―西鶴『万の文反古』―（学術研究会、二〇〇六年十一月二三日、於北京日本学研究センター）。

常軌を逸した信義―『雨月物語』『菊花の約』を読む―（東京芸術大学文化講座「文学から見た江戸・明治」、二〇〇七年二月一日、於東京芸術大学）。

秋成―テクストの生成と変容―（コメンテーター、大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論「テクストの生成と変容」特別研究会、二〇〇七年三月一六日、於大阪大学）。

近世文学における「江戸」像―上方から見た「江戸」・江戸から見た「江戸」―（第二三回国際学術シンポジウム「江戸・東京の表象と心象地理」、二〇〇七年四月六日、於檀国大学校日本研究所）。

近世名句の誤読（BK21高麗大学校中日言語文化教育研究団「海外碩学招聘講演会」、二〇〇七年四月二七日、於高麗大学校）。上田秋成における物語の生成（「Narrative, Narrativehood, Narrativity and Nonnarrative in Japanese Prose of the Edo

Period」（二〇〇七年五月二〇日～六月一日、於Universita Pontificia Salesiana, Rome）。

秋成小説の「毒」（青山学院大学文学部日本文学科主宰国際シンポジウム二〇〇七）、二〇〇七年九月二三日、於青山学院大学）。怪異たちの「ことば」―『雨月物語』の場合―（物語研究会シンポジウム「亡霊とエクリチュール」、二〇〇八年三月一五日、於明治大学）。

『雨月物語』の多義性（名古屋大学文学研究科日本文化学講座オーブンセミナー、二〇〇九年一月二七日、於名古屋大学）。

日本人の固有文化としての歳時記（青山グリーンアカデミー「茶の湯と現代」講座「四季を彩る、生活文化としての歳時記」、二〇〇九年四月二四日、於中労基協ビル）。

『雨月物語』の怪異（二一世紀活字文化プロジェクト、二〇〇九年六月二日、於青山学院大学）。

上田秋成の人と文学（群馬県立女子大学国語国文学会、二〇〇九年七月五日、於群馬県立女子大学）。

物語集としての『藤簍冊子』―秋成における物語の生成―（日本近世文学・文芸の中心と周縁、二〇〇九年九月一八日、於高麗大学校）。

断簡零墨の中の秋成―『鶉居帖』の楽しみ―（天理ギャラリー第一四〇回展「秋成」記念講演、二〇一〇年五月二九日、於天理ギヤラリー）。

上田秋成の画賛（平成二二年度京都国立博物館夏期講座「文学と美術」、二〇一〇年七月二九日、於ハートピア京都）。

荷田春満と近世の学芸―『新編荷田春満全集』全十二巻完結にあたって―（二〇一〇年八月二十九日、於国学院大学院友会館）（鈴木淳・根岸茂夫・松本久史と）。

韓国留学生の日本文学研究の現況、並びに展望―日本近世文学を中心に―（慶熙大学校外国語大学創立三〇周年記念国際学術大会「外国学研究の現況と展望」、二〇一〇年一〇月二十八日、於慶熙大学校）。

La numérisation des livres anciens au Japon（フランス国会図書館・フランス極東学院主催講演会、二〇一一年三月一六日、於アジア会館〔パリ〕）。

日本語の歴史的典籍のデータベースの構築―文部科学省による学術研究の大型プロジェクトの推進と関連して―（EARS〔日本資料専門家欧州協会〕二〇一一年度大会、二〇一一年九月八日、於ニューヨークスル大学）。

前近代のリテラシー（日本学術会議言語・文学委員会参照基準分科会、二〇一一年一〇月二七日、於日本学術会議）。

『雨月物語』の多義性について（佛教大学国語国文学会、二〇一一年一月二六日、於佛教大学）。

留学生の日本文学研究の現況、並びに展望―韓国留学生の日本近世文学研究を中心に―（国際シンポジウム「外国における日本文学研究と日本文学教育―韓国の場合を中心に―」、二〇一二年九月一六日、於韓国外国語大学校）。

『源氏物語』と『雨月物語』（立教大学日本学研究所開設一〇周年記念・国際シンポジウム「日本学の現在と未来」、二〇一二年一月四日、於立教大学）。

上田秋成の異国（法政大学国際日本学研究所主催シンポジウム「江戸人の考えた日本像―世界の中の自分たち―」、二〇一三年三月一六日、於法政大学市ヶ谷キャンパス）。

『雨月物語』の享受（東京大学・コロンビア大学合同国際シンポジウム「日本文学に関する研究と教育の国際化」、二〇一三年三月二九日、於コロンビア大学）。

『雨月物語』を映画「雨月物語」から読む（国際学術会議「一七―一九世紀東アジア伝統文化の中の死と死後観」、二〇一三年四月一三日、於高麗大学校民族文化研究院）。

上田秋成の墓（上田秋成忌学術講演、二〇一三年六月二三日、於西福寺）。

「総合日本文学」と留学生の現況（国際シンポジウム「日本文学研究と中国―研究の国際化をめざして―」、二〇一三年七月八日、於北京日本学研究中心）。

古典文学の継承と解体と再生―上田秋成作『雨月物語』と溝口健二監督作品・映画「雨月物語」（第七回ワルシャワ大学日本祭基調講演、二〇一三年一〇月一四日、於ワルシャワ大学）。

江戸怪談の極北―『雨月物語』『浅茅が宿』を読む―（ローマ大学国際講演会、二〇一三年一〇月一七日、於ローマ大学）。
物語文学のゆくえ―『雨月物語』の世界―（ソウル大学校国際講演会、二〇一三年一〇月三〇日、於ソウル大学校）。

東京大学における日本文学教育（韓国日本言語文化学会二〇一三年度秋季国際学術大会招待講演、二〇一三年一月九日、於サイバー韓国外国語大学校）。

気質者の信義―『雨月物語』『菊花の約』を読む―（鶴見大学日本文学会「鶴見大学日本文学科創設五〇周年記念秋期連続講演会」、二〇一三年一月三〇日、於鶴見大学会館）。

延享の朝鮮通信使と日本人医師―樋口道与と『韓客治験』―（韓国日語日文学会二〇一四年国際学術シンポジウム「日本における『歴史』の語りと交流の『歴史』―『韓国との対話』という未来志向的視点から―」招待講演、二〇一四年一〇月二五日、於韓国外国語大学校）。

雨月物語と漢文（全国漢文教育学会第三一回漢文教育研修会招待講演、二〇一五年七月三〇日、於湯島聖堂内斯文会館講堂）。

江戸時代の名句の誤読（東洋学セミナー招待講演、二〇一六年一月二五日、於ケンブリッジ大学）。

文学ジャンルのヒエラルキーと本文の流動―江戸時代小説を起点として―（国際ワークショップ「日本文学史再考」、二〇一六年三月一日、於コロンビア大学）。

翻案・モデル・歴史、そして作者・戯号―上田秋成の小説を例にして―（国際ワークショップ「東アジアとヨーロッパにおける作者性の再考」、二〇一七年三月二二日、於コロンビア大学）。

戯作者の考証学―黄金期・元禄への憧憬―（日仏会館・日仏会館フランス事務所主催国際シンポジウム「民俗学／民族学のエクリチュール」招待発表、二〇一七年四月二二日、於日仏会館）。

上田秋成が記した浅間山噴火と京都大火―「浅間の煙」と「迦具都遅能阿良毗」―（檀国大学校日本研究所主催「韓・日古典文学における非日常体験の形象と日常性回復のメタフォー」（飢饉と災害、天災地変）「コロキウム招待発表、二〇一七年六月二四日、於檀国大学校」）。

宣長と秋成（鈴屋学会公開講演会、二〇一八年四月二二日、於松阪市産業振興センター）。